

エコ・あぐり・タウン くねっぴ 応援団だより

平成29年2月6日発行 NO45

訓子府町の「ふるさと応援団」にご参加いただき、ありがとうございます。みなさまと訓子府町を結び便りにできればと考えております。

居武士小学校 開校1世紀を祝う

居武士小学校の開校100周年記念式典が、昨年11月26日に居小体育館で挙行政され、児童や卒業生など約200人が100年の節目を祝いました。

式典では、記念事業協賛会の古沢栄一会長の式辞や中村厚志校長らのあいさつ、歴代校長3人や歴代後援会会長8人、(株)菅野養蜂場、居武士小学校スピードスケート少年団指導者5人、訓子府石灰工業(株)に感謝状贈呈があり、全校生徒の合唱で、開校2世紀に向かい、発展を誓いました。

式典後には、記念碑の除幕式が行われ、開校100周年の記念碑が披露されました。

また、祝賀会では、児童や卒業生は昔話や思い出を語りながら、記念すべき日を過ごしました。



個人・団体の功績をたたえ、表彰式を挙行政

平成28年度訓子府町文化・スポーツ表彰式を昨年11月3日、町公民館で行いました。

今年度は、功労賞が3個人・2団体、奨励賞が5個人・3団体。いずれもそれぞれの分野で活躍されました。受賞者は、林教育長や飯田代表教育委員から一人ずつ表彰盾や表彰状、メダルなどを受け、会場に訪れた関係者らから祝福の大きな拍手を受けていました。



劇団「訓子府座」「妻恋橋」を上演

劇団「訓子府座」の第3回公演が、1月22日に町公民館で行われました。

今回は、開基120年記念公演として、訓子府町を舞台とした演劇「妻恋橋」を上演。日本酒の「妻恋橋」やスノーマーチを使った焼酎「訓粹」などのお酒の名前や町内の飲食店の名前が登場するなど、楽しさが溢れる内容となっていました。

会場には、観客ら約260人が訪れ、演劇を満喫しました。



北海道常呂郡訓子府町東町398番地 訓子府町役場企画財政課
Tel 0157-47-2115 Fax 0157-47-2600
E-mail kikaku@town.kunneppu.hokkaido.jp
URL <http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/>

「若者たち」の頑張りに期待して

2017年は穏やかな新春を迎える事ができました。昨年の開基120年を終えて、町では第6次総合計画が大勢の町民との話し合いやアンケート調査を経て産声を上げようとしています。人口減少社会や農村消滅が叫ばれ、国、北海道、市町村ともに「地方創生」を旗印に前へ進めようとしています。アメリカのトランプ大統領は「アメリカ第一主義」を掲げTPP離脱を決め、さらにイギリスはEU離脱等々、新自由主義やグローバル社会に陰りが見えはじめ「先が見えない」「混乱社会」とも言われています。しかし何時の時代も先が見えない、混乱社会は現存・連鎖しており、その時々若者たちが一致協力し、困難を乗り越え、展望を切り開いてきたと思えてなりません。この度発行された「応援団だよりNO45号」にも訓子府小学校スクールバンドの7年連続全国大会出場の快挙が掲載されています。紹介されてはいませんが町4Hクラブも全道農業青年会議の地或活動部門で連続して「優秀賞」を受賞しています。また日常的に町づくり等で頑張っている訓青協（青年団体連絡協議会）や劇団訓子府座公演「妻恋橋」の上演に関わる役者、スタッフの半数は若き役場職員が占めています。そして町民の安心安全の先頭を走る消防団員の中にも若い役場職員が「志」を抱き活躍しています。

2月5日（日）には「第38回さむさむまつり」が開催されましたが、毎夜、零下20度を超える厳寒の中、大勢の子ども達の歓声に夢を膨らませながら若者たちが雪像づくりに力を注いでいました。従来にもましてこうした若者たちの頑張りが困難を乗り越え展望を切り開いてくれることを確信しています。



町長's Eye

成人式 振袖など着飾り大人の仲間入り

平成29年訓子府町成人式が1月8日に町公民館で行われ、男性17人、女性13人の合わせて30人が出席し、多くの方の祝福を受けました。

この日は天候に恵まれ、新成人がスーツや振袖などに身を包み、緊張した表情で会場に集まりました。

式典では、町民憲章朗唱のあと、新成人を代表して森田琴乃さんに記念品が贈呈され、永井みのりさんが「両親をはじめ、今まで支えてくれた皆さんに何か一つでも恩返しができるように努力していきます。今、目の前にあることを中途半端にせず、真摯に取り組み、一度しかない自分の人生を輝かせていくことを忘れずに日々行動していきます」と誓いの言葉を述べました。

交流パーティーでは久しぶりに再会した友達と記念撮影をするなど、成人の第一歩を楽しく過ごしていました。



訓小スクールバンド 全国切符獲得

1月10日に札幌市で開かれた第31回全道リコーダーコンテストに訓子府小学校スクールバンドが、出場しました。

コンテストでは、金賞と特別賞として「北海道リコーダー教育研究会長賞」を獲得し、同時に7年連続となる全国大会への出場を決めました。全国大会は3月26日に東京都で開催されます。



ふるさと自慢うた自慢公開録音 in 訓子府

NHKラジオ第一・国際放送のラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」と「ふるさと自慢コンサート」の公開録音が昨年12月9日、町公民館で行われました。この公開録音は、町とNHK北見放送局が主催で、120年記念事業として開催されました。



「ふるさと自慢うた自慢」では、ゲストの小金沢昇司さんと市川由紀乃さんをそれぞれリーダーとして、男性、女性グループが対抗でふるさと自慢と歌を競いました。

男性グループには、前田一真さん、森下智崇さんら2人、谷口武彦さん。女性グループには、下田裕美子さん、矢口真美さんら6人、橋詰絢菜さんが出演し、訓子府メロンやスノーマーチ、たれカツ丼などの特産品や認定こども園、青年団活動、移住者による外様会（とざまかい）など、それぞれが町の魅力をアピールしました。

「ふるさと自慢コンサート」では、ゲストの2人が歌を披露。観客は2人の美しい歌声に酔いしれていました。

また、コンサートの合間には、ふるさとのおとぎの商品として、(株)菅野養蜂場のはちみつが紹介され、改めてふるさとの良さを発見しました。



高知県物産展 津野町コーナーにぎわう

高知県の観光と物産展が1月11日から16日まで北見市で開催されました。姉妹町の高知県・津野町からも多数の特産品が販売され、にぎわいました。

「姉妹都市コーナー」で津野町産のショウガやサツマイモ、サトイモ、煎茶、高知県の地鶏「土佐ジロー」の卵などが販売されたほか、津野町産オリジナルスイーツの「満天の星大福」や「ほうじ茶ロールケーキ」なども販売されました。

訓子府町の職員のほか、津野町から派遣されている竹内祥悟さん、津野町役場職員の片岡昌梓さんも販売員となって、津野町の特産品を販売しました。また、この物産展に参加した「ミス高知」の妹尾佳奈さんと土佐おもてなし海援隊「武市半平太」さんらが1月10日に本町を訪れ「物産展を盛り上げたいです」と話していました。

